

早稲田大学 人間科学部 国語 講評

〔総合分析〕

出題形式	全問マーク式
試験時間	90分(現代文2問、古漢1問)
難易度	昨年より易化

〔大問別講評〕

(一) 評論文。「時間論」(時計の時間と体験される時間)について。出典:一川誠の文章による。

(本文字数:約 2800 字 = 昨年より約 400 字増加。設問数:9 = 昨年より1問増加。)

小問	難易度	コメント
問一	易	〔漢字〕いずれも基本的な語句である。
問二・X	易	〔空欄補充〕直前・直後、及び、空欄の2行後よりたやすく判断できる。
問二・Y	易	〔空欄補充〕直前の二文から判断する。
問三	やや易	〔空欄補充〕空欄のある段落全体から判断する。
問四	易	〔傍線部説明〕いずれも紛らわしい選択肢はない。
問五	やや易	〔脱落文挿入〕二つの「時間」が異なるものであるという説明の前に入る。
問六	易	〔空欄補充〕空欄の直後の具体例から判断する。
問七	標準	〔理由説明〕口は、後半が空欄Xの直後の一文に反する。
問八	易	〔空欄補充〕前後の文脈より明らかだろう。
問九	やや難	〔傍線部説明〕ホがやや紛らわしいが、文章全体の趣旨から判断する。

(二) 随筆文。「星の王子さま」について。出典:近藤浩章の文章による。

(本文字数:約 1600 字 = 昨年より約 700 字減少。設問数:8 = 昨年と同じ。)

問十	やや易	〔傍線部説明〕傍線部の5行後より明らか。口は同一人物に関する事柄である。
問十一	やや易	〔空欄補充〕空欄の直後の表現から判断する。
問十二	易	〔空欄補充〕前後の文脈からたやすく判断できる。
問十三	やや易	〔空欄補充〕傍線2を含む一文から判断する。
問十四	やや易	〔誤記訂正〕現代を批判した文章である。
問十五	標準	〔理由説明〕傍線部の内容から考える。消去法でも解けるだろう。
問十六	標準	〔整序問題〕各文頭の接続語に着目して解く。
問十七	やや易	〔趣旨判別〕文章全体の趣旨から考える。

(三) 古文。出典：『弁内侍日記』。

(本文字数：約 650 字 = 昨年より約 150 字減少。設問数：7 = 昨年と同じ。)

小問	難易度	コメント
問十八	標準	【主語判定】丁寧に文意をおさえて判断する。3がやや難しいか。
問十九	易	【文法問題】「に」の識別の基本。傍線部は、完了の「ぬ」の連用形。
問二十	標準	【文脈把握】傍線部と前後の文脈から判断する。
問二十一	標準	【文脈把握】本文中の和歌の内容を中心に判断する。
問二十二	やや難	【空欄補充】ニが紛らわしいが、直後の「あります (= 予期する・期待する)」とのつながりから考える。
問二十三	易	【脱文挿入】各空欄の前後を読めば容易に判断できる。
問二十四	標準	【文脈把握】問二十一と連動している。

(三) 漢文。出典：『漢書』「武帝紀」。

(本文字数：約 50 字 = 昨年とほぼ同じ。設問数：3 = 昨年より1問増加。)

問二十五・(1)	やや易	【文脈把握】直後の「三百里」から傍線部の意味を規定して判断する。
問二十五・(2)	やや難	【句形】受身形。「為A所B」で「Aの為にB(セ)らる」と読む場合がある。ホだと「らるる」と「ところ」で、「所」が二度読まれることになってしまう。
問二十五・(3)	標準	【空欄補充】本文全体を読んで判断する。

〔総合コメント・今後の指針〕

例年以上に、現代文で基本的な設問が中心に出題され、昨年と比べて易化した。

大問一は、「時計の時間と体験される時間」についての評論文。読みやすい内容で、設問もそれほど難しくなく、傍線部や空欄の前後の文脈だけで解ける設問がほとんどだったので、高得点をとった受験生が多かったであろう。ふだんから傍線部や空欄の前後をしっかりと分析するという姿勢を身につけるとよい。なお、時間論は入試頻出のテーマの一つ。本校でも、『早大現代文 PART』の〔三〕、『ハイレベル現代文 / 早大難関大現代文 PART』の〔三〕、などで時間論を扱った。

大問二は、「星の王子さま」についての随筆文。基本的な設問が多かったので、随筆文に慣れていなくてもそれほど苦戦はしなかったと思われる。合格するには高得点をとる必要があるだろう。

大問三の古文は、『弁内侍日記』。丁寧に読み進めないと主語の判定を間違ってしまう、大きく失点してしまう。ふだんから、省略されている語句を補いつつ、じっくり読む、という練習をしておくことが望まれる。

漢文は、『漢書』「武帝紀」。本文は短く、設問も問二十五(2)以外は難しい。現役生のなかには受験勉強で漢文まで手が回らないという人もいるだろうが、句形などの基本事項だけでもマスターして、センター試験レベルの漢文はできるようにしておきたい。